

2024年8月15日

カーボンブラック協会

## 2024年（R6）カーボンブラック需要年央見直し

内閣府の7月の月例経済報告によると、国内景気は雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって緩やかな回復が続くことが期待されている。一方、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが国内の景気を下押しするリスクがあり、また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があるとしている。

このような経済環境の中で、カーボンブラック需要の7割を占める自動車タイヤ需要について（一社）日本自動車タイヤ協会が、見直し需要を7月中旬に公表している。

これによると、自動車生産は前年比6.0%減（年初見通し比7.2%減）、タイヤの国内需要見通しは前年比・年初見通し比ともに3.7%減となっている。

これに伴い、新ゴム消費量も、年初比減少することが確実視されるが、当協会が独自に予測したところでは、前年比2～3%減少すると前提した。

一方、今年は自動車生産・タイヤ生産ともに上期実績は、前年比8～10%と大きく減少したが、下期に挽回され下期は概ね前年並みの生産レベルに回復していくことが特徴的である。

当協会は、（一社）日本自動車タイヤ協会の見直しと（一社）日本ゴム工業会の生産実績をベースに、カーボンブラックの輸出入の状況等を加味して2024年のカーボンブラック需要の見直しを行った。この結果、カーボンブラック総需要は、前述の通り下期のみではほぼ前年比100%を見込んだが、通期では前年比1.6%減、年初見通比3.8%減の659,500トンとした。

なお、「年央見通しの指標」については添付資料の【表1】を、「カーボンブラック需要年央見直し」については同【表2】、「輸入動向年央見直し」については【表3】を夫々参照願う。

以上

【表1】 2024年 年央需要見通しの指標

	2023年実績		2024年 年初需要見通し		2024年 年央需要見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
日本自動車タイヤ協会			2023年12月6日発表		7月16日発表	
自動車生産 (千台)	8,999	114.9%	9,108	101.2%	8,456	94.0%
日本ゴム工業会			1月26日発表		3月25日発表	
タイヤゴム消費 (トン)	968,450	96.6%	984,820	101.7%	974,260	100.6%
一般ゴム消費 (トン)	243,750	102.3%	257,580	105.7%	252,540	103.6%
新ゴム消費量計 (トン)	1,212,200	97.7%	1,242,400	102.5%	1,226,800	101.2%

【表2】 2024年カーボンブラック年央需要見通し

数量単位：トン

	2023年実績		2024年 年初需要見通し		2024年 年央需要見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
タイヤ	443,550	95.9%	450,798	101.6%	432,500	97.5%
一般ゴム	138,938	102.3%	146,672	105.6%	138,900	100.0%
ゴム用計	582,488	97.4%	597,470	102.6%	571,400	98.1%
非ゴム	38,790	87.9%	39,180	101.0%	39,600	102.1%
内需計	621,278	96.7%	636,650	102.5%	611,000	98.3%
輸出	48,701	87.0%	49,200	101.0%	48,500	99.6%
[内ゴム用計]	12,721	83.9%	12,850	101.0%	12,500	98.3%
総需要	<b>669,979</b>	96.0%	<b>685,850</b>	102.4%	<b>659,500</b>	98.4%
[内ゴム用計]	595,209	97.0%	610,320	102.5%	583,900	98.1%

【表3】 2024年カーボンブラック輸入動向

数量単位：トン

	2023年実績		2024年 年初需要見通し		2024年 年央需要見通し	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
ゴム用	100,189	85.8%	101,250	101.1%	100,000	99.8%
非ゴム用	10,209	76.2%	10,270	100.6%	11,000	107.7%
合計	110,398	84.8%	111,520	101.0%	111,000	100.5%

以上